



ほ 多 当

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】 小さく分けばうまくいく

森本 繁生 著 Independently published

ホームページ <https://primecorporation.jp/>

発行日 2025年8月1日 Vol. 274

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

代表取締役 渡 邊 敏 徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 1660 番地

Phone 0554-22-2810 Fax 0554-67-8006

黒字リストラ

最近、社員の早期退職を募る大手企業が増えています。赤字決算が続くところだけでなく、黒字企業も早期退職を実施しているのが大きな特徴です。

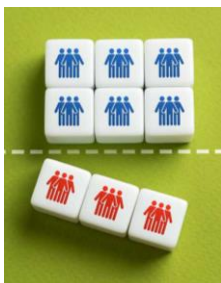
東京商工リサーチの調査によると、2025年1月から5月における上場企業の早期・希望退職人員数は前年同期比で2倍と急増しました。ジャパンディスプレイや日産自動車など赤字企業が人員削減を実施するのはある意味で当然のことだと思いますが、特に注目を集めているのが“黒字決算”でありながら大規模な人員削減を実施するパナソニックホールディングスです。国内5,000人、海外5,000人の合計10,000人という大規模なリストラ策の実施を発表しています。パナソニック以外にも資生堂、オムロン、マツダ、コニカミノルタ、ルネサスエレクトロニクスなど、黒字でも希望退職者を募集してリストラを進める会社が頻出しています。世界経済にはトランプ関税という逆風が吹き始めており、このまま何もしなければ企業の業績は低下していく可能性が高くなります。トランプ関税にどう対処し、事業構造を最適化できるのかによって各社の業績には大きな違いが生じてくると思われます。

黒字リストラとは、業績良好な黒字企業が、企業組織を“再構築”するために実施するリストラのことになります。黒字企業がリストラに踏み切る理由としては、次のような点が挙げられます。

1. 財政状態が健全なうちに事業を見直す 2. 年功序列を見直して人件費を抑制するため 3. シニア世代になる前、再就職が可能な段階で退職を進めるためなどがあります。

これらはあくまでも企業側の論理であり、働く側にとって黒字リストラはそう簡単に受け入れることはとても難しい状況です。

黒字リストラ時代を生き抜くには、専門能力を磨き実績を積んでいくことで、企業にとって重要な人材と位置付けられリストラ対象になりにくくすることや、「AI に詳しい」「資格をもつ」など職場内で一目置かれるスキル・能力を持つことが求められます。



真っ先にリストラ対象となりやすい人の特徴は、上司・同僚との関係構築が不十分で、チームでの行動がしにくく、職場内で孤立気味の人です。普段から積極的にコミュニケーションを取るように意識し、関係を良好に保つように心がけることが重要です。今日の目の前のことも大切ですが、5年後、10年後を見据えた行動が自分自身を守っていくことになりそうですね。

お相撲さん半減

先月の13日から大相撲名古屋場所が開催されました。今までは愛知県体育館(ドルフィンズアリーナ)で開催されていましたが、今場所からIGアリーナ(愛知国際アリーナ)で開催されこけら落とし公演となりました。優勝は初優勝の平幕琴勝峰が13勝2敗で幕を閉じました。

3月3日付の日経新聞に「お相撲さん半減？」という記事がありました。大相撲の力士数減少に歯止めがかかっていません。3月春場所の番付に載った力士数は588人。1994年943人のピークから6割の規模に縮んでいます。将来の半減も現実味を帯びてきました。

大相撲会は、朝青龍、貴乃花、そして白鵬と相撲界を担ってきた人気力士が角界を去ってしまいました。古い習慣と低待遇が大きな壁だと言われていますが、本横綱朝青龍はこんなことを言っています。「あと10年もしたら大相撲なくなるよ。現役が500人くらいしかいないのに、辞めた力士の保障もできない。誰がそんなところに入るんだ」と。

大相撲で史上最多45度の優勝を誇る、前宮城野親方の白鵬翔さんが6月9日付で協会を退職しました。今後について「新たな夢に向かって進み出す。外の立場から相撲の発展に力を尽くしたい」と表明し、国内外に競技の裾野の拡大を目指す「世界相撲グラインドスラム構想」を掲げました。

日本の伝統ある相撲をどんな形で残していけるのか、日本相撲協会を始め“夢”ある組織に変貌していくことを期待したいと思います。



【座右の銘にしたい名言】



人の世に道は一つということはない。道は百も千も万もある。

坂本 龍馬 (幕末の志士、土佐藩郷士)